

GANEF0 から早 5 6 年、八十路に踏み込んだ今

ガネフォ水球

吉 田 稔 (82 歳)

(法政大学出身)

昨年ジャカルタでアジア大会が開催され、来年は東京オリンピック。ちょうど 5 6 年前と同じめぐり合わせになった 2 0 1 9 年の今、当時なんとなく肩身の狭い思いで参加した“GANEF0”は私にとって何だったのか？

知る人ぞ知る大会、私の周りにはアジア大会と混同している人が居る程度で、9 9、9 % の人は知らない大会であった。

その大会に出場した事に付いては、これまでの文集に縷々記されているので今更述べるまでもないし、思い出と言っても当時の事は記憶からかなり薄れているので部分的に思い浮かぶ程度だから、文章に纏めるには時間が経ちすぎたようである。迷っているところへ村上君から「その後の人生について書けば」とのアドバイスをもらい、されば前回述べた生き様の補充を兼ねて書くことにした。

当時と全く違う世界の情勢は、表向き自由圏と共産圏との対立の壁がなくなったことである。少なくともスポーツに於いては世界の壁がなくなり、ルールに基づく競争の場は、競技者も観戦者も共に感動を得られる貴重な場として定着し、全世界の人々が手を繋ぎ共に喜び合える場になったことであろう。

その後、今日までの生き様については、文集パート 2 (懐かしのガネフォ 5 0 周年記念版 P 9 4) で述べたとおり、3 5 歳の時から、私が住む河内長野市にプールが小学校に 1 個、市民プールが 1 個しかなかったことに対して、市内の全中学校、小学校にプールの設置を目標に「かなづち君さようなら」と幟を上げて取り組んだ「小学生対象の水泳教室」を開いた事がきっかけで、市体育協会副理事長 2 年、体育指導委員 2 6 年 (その間委員長として 1 2 年) を勤め、その上 4 0 歳代後半から 6 0 歳迄は大阪府教育委員会の指導主事をしていた高校時代の後輩からの依頼で、南河内地区小中学校教職員の体育実技指導者に任命され、毎年初夏には仕事の合間に各小中学校を廻って水泳実技の教え方指導をしていた。世の中誰もが定年になる 6 5 歳から河内長野市総合スポーツ振興会の設立とその元締め、体育施設の指定管理者、河内長野市社会教育委員等々次々に役を仰せつかり、今年 8 2 歳を迎える今も振興会の会長としてスポーツ業界から足を洗うことが出来ずにいる次第。



発行日：平成 31 年 3 月 2 日 No.014
発行：NPO 法人河内長野市総合スポーツ振興会
電話：0721-26-7660 FAX：0721-26-7661
E-mail：knagano.sposin@beach.ocn.ne.jp
H P：http://www.knaganosposin.org/

今こそ総合スポーツ振興会がなすべきこと！



今年、ラグビーのワールドカップ、来年は 56 年ぶり 2 度目の東京オリンピックと、スポーツの大イベントを目前に控えて、多くの人々にとってスポーツへの関心が高まる時がやってきました。我が NPO 法人河内長野市総合スポーツ振興会設立 12 年 会長 吉田 稔目を迎えて、設立当初に掲げたスローガン“たった一度の人生を健やかに生ききる、そして後を託す青少年を健全でたくましく育てる”の実現に遭遇する絶好の時期が到来したように感じます。

そこで、振興会の事業推進に対する方向性としては

1. 市民全体のスポーツに関する理解度と健康との関わり、即ち相乗効果についての意識向上、言い換えれば医学、栄養学、スポーツの三位一体となった市民総参加の健康づくり
2. 優秀スポーツ選手の育成 アスリートの養成と選手層の拡大
3. 優秀な指導者の養成 高度な技術は言に及ばず、心身のケアに対する豊富な知識を有し、指導力と健全な法遵守精神を備えた指導者を養成する
4. 優秀選手や指導者の養成に必要な、支援制度の設立

体力的にもそろそろ限界を感じるようになってきた今振り返ってみると、これ迄の半世紀を臆せず屈せず頑張ってきたのは、若い時代に鍛えた体力と都度の試合に向かう気力、そしてそれらの集大成が 5 6 年前の G A N E F O 出場であった気がする。

心のどこかで、周囲の阻止を振り切り政治とスポーツは本来無関係であるのに、“何故”と言った疑問と任侠心に駆り立てられ、その上初めての海外での試合に対する憧れによって参加した G A N E F O は、その後の私にとって大きな心の砦となった。

半世紀を過ぎた頃から当時の水球メンバーの G A N E F O 会へ参加するようになり、仲間と年一回の歓談を楽しむにつけ、既に黄泉に旅立った仲間を偲びつつ残された人生をいかに生き抜くか、そして今やっておく事はないか等々と思いを致すこのごろである。

現在、スポーツ振興会の代表として、スポーツによる青少年の健全な育成とスポーツマンシップによる、公平でフェアな社会の実現を掲げ、毎年各種市民スポーツ大会の主催、傘下スポーツ団体の育成、功労者や優秀選手の表彰のほか、健康面では生涯スポーツの普及や健康増進の各種事業を行っているが、最も望むところは、世界に羽ばたく選手の育成である。

先年、スポーツや芸術を志す若い人たちを少しでも支援できるよう、行政を核とした支援団体の設立と支援事業を提唱し当時の芝田市長に直訴した結果、市長から平成29年の3月に、4月以降の次年度に発足する旨内諾をもらっていた。ところがその年の7月に市長の改選があり、現在の島田市長に変わってしまった。

その年の9月に島田新市長から呼び出しがあり、市の財政難で当分の間この計画は棚上げさせて欲しいと言われ、保留となってしまったのである。

おまけに現在我が河内長野市はご多聞にもれず、少子高齢化の上に高齢者が自分の子供を頼って都会へ移住し、毎年かなりの人口が減少している現状から、20年程前に一度挫折しかけた市民マラソン（5km。10km）を私の提唱で全国ネットの山間ハーフマラソンを加え、毎年恒例の市民ハーフマラソンとして定着してきたものが、ここへ来て財政難のためこれも存続が危うくなってきたのである。

おなじく20年程前、私が体育指導委員会の委員長時代に、河内長野市制始まってより、「緑の健康都市河内長野」を宣言しながら、市が制定した健康の日がないのはおかしいと、体育協会・スポーツレクリエーション協会・医師会を口説き「河内長野市健康の日」の制定を要望、其の年から毎年11月の第2日曜日が当市の健康の日と制定された。以来その日には要望に協力した各団体が役割分担をし、健康に関するイベントを企画し継続しているが、この協力団体が母体となって現在の総合スポーツ振興会が発足したのである。

現在当市に於ける人口減の対策と税の増収を如何にするか？

私なりに考えている事はスポーツ立市を目指し、たった一種類のスポーツでもいいから、そのスポーツをやり、世界に通用する選手になるなら河内長野市に住み、河内長野市でトレーニングするのが最も近道であると言った仕組みが出来れば、全国は言うに及ばず世界からも注目



を浴びて、やがてはいくつかの種目も加わり、スポーツ立市が実現しないだろうか。などと果てしない夢を描きつつ時に触れ、折に触れては、市長や市議員さんなどに口説いて廻っている昨今である。

おそらく私の生存中には実現する事はないと思うが、諸兄のお知恵を拝借して、生きている限り実現に向けて頑張りたいと思っているので、宜しくご指導ご鞭撻を御願い致します。